

あ・そ・ぼ


2024年3月1日(金)から  
6月2日(日)まで 安曇野にて  
6月22日(土)から  
10月6日(日)まで 東京にて

あれこれいのち

3月1日(金)から  
6月16日(日)まで 東京にて  
9月7日(土)から  
12月1日(日)まで 安曇野にて

みんななかまよ

6月8日(土)から  
9月1日(日)まで 安曇野にて  
10月12日(土)から  
2025年1月31日(金)まで 東京にて

 ちひろ美術館(東京・安曇野)

近森基十 小原藍 (plaplaX)  
展覧会ディレクター



ちひろ美術館ちひろぼつご50ねん  
いっしょのみなあそび

# いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ

いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ  
展覧会スケジュール

## あ・そ・ぼ

2024年3月1日(金)～6月2日(日) 安曇野ちひろ美術館  
6月22日(土)～10月6日(日) ちひろ美術館・東京

## あれこれいのち

3月1日(金)～6月16日(日) ちひろ美術館・東京  
9月7日(土)～12月1日(日) 安曇野ちひろ美術館

## みんななかまよ

6月8日(土)～9月1日(日) 安曇野ちひろ美術館  
10月12日(土)～2025年1月31日(金) ちひろ美術館・東京

展覧会特設サイト

<https://chihiro.jp/2024kodomom> (2024年1月末公開予定)

## ちひろから、いまのこどもと、 かつてのこどものみなさまへ――

2024年はいわさきちひろの没後50年。

半世紀のときを超えて、ちひろの絵が語りかけてくるものとは……？

「あそび」「自然」「平和」の3つのテーマから、

現代科学の視点も交えて、ちひろの絵を読み解きます。

子どもも大人も見ただけでなく参加したくなる、

今までにないちひろの展覧会です。



## いわさきちひろ (1918～1974)

福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。第二次世界大戦後、紙芝居や教科書、絵雑誌、絵本など子どもの本を中心に画家として活躍。生涯にわたって子どもや花を描き続けた。1974年没、享年55。現存する作品は約9600点。

## 展覧会ディレクター

### 近森基+小原藍 (plaplaX)

インタラクティブな作品制作を軸に、展覧会の展示構成、空間演出、映像コンテンツの企画制作など幅広く活動する。様々な手法やメディアを使って、創造的な学びや発見のある体験づくりに取り組む。2018年、「いわさきちひろ生誕100年『Life展』あそび plaplaX」をちひろ美術館で開催。



無垢な子どもたち、美しい自然、平和への願い。

これらは、ちひろさんが生涯を通して描いたテーマです。

没後50年にあたる1年間、改めてこのテーマと向き合おうとしたとき、＜科学の目＞を通してみることを考えました。とはいえ難しい知識や情報を駆使するわけではありません。目の前のものの“ありのまま”をよく見て受け止め、そこから出発する。科学の目は、特別な人が難しいことを考えるためのものではなく、だれもが見慣れた風景を、新たな発見にあふれた豊かな世界に変化させるまなざしだと思ったのです。本来子どもたちは、そんな風に見つめているかもしれません。

会場で作品を見たり触れたり、体を動かしたり。子どもも大人も「わあ！これはなんだ？」とわいわいっしょになって進んでいく。そんな展覧会のあり方を目指しました。

## グラフィックデザイン

### 岡崎智弘

2011年9月よりデザインスタジオSWIMMINGを設立し活動。グラフィックデザインの姿勢を基軸に、印刷物/映像/展覧会など視覚伝達を中心とした領域を柔軟につなぎながら、仕事の規模を問わず、文化と経済の両輪でデザインの活動に取り組んでいる。デザインの仕事は、自分が知らない世界や事象と向き合う機会となることや、人や社会とつながる行為となること、また世界のとらえ方や構造を発見し関与することができるものであり、その可能性に大きな魅力を感じている。



いわさきさんの絵は、本や印刷物という形態で生活のなかにいっしょにいます。私たちが暮らしている日常と、いわさきさんの世界とが溶け合う境界に興味を持ちました。

私たちの生きる時間のなかに、いわさきさんの世界がくつつくとき、そこに生まれる感覚を「豊かさ」ということばでいうような気がしています。

今回、私がポスターやチラシのグラフィックデザインで取り組もうとしていることは、いわさきさんの世界と私たちの世界とが重なる、モノや空間としてのグラフィックイメージです。絵というものは平面の存在ではありますが、実は実体を持ったモノや空間とともに在るものです。絵が、私たちの生きる世界と重なるものになる状態をデザインしようと試みます。そして、その見方を展覧会場のグラフィックにも溶け入るようにデザインできないものかと想像しています。

## 図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp

各種SNSも更新中

お問い合わせ

広報担当 入口・松方・原島・北村

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

TEL.03-3995-0772 (業務用) FAX 03-3995-0680

TEL.03-3995-0612 (代表)

E-mail : publicity@chihiro.or.jp

いわさきちひろ ぼつご50ねん  
こどものみなさまへ

# あれこれいのち

2024年3月1日(金)～6月16日(日)

ちひろ美術館・東京

主催：ちひろ美術館  
 展覧会ディレクター：近森基+小原藍 (plapla)  
 企画協力：鷺谷いつみ  
 後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

あれ？ とたちどまってみる。  
 これ？ とみつけてみる。  
 あれこれかんがえてみる。

いわさきちひろが東京・下石神井で暮らし、絵を描いていた50年以上前、日本は高度成長期のまっただなかでした。開発の名のもと、木々は切られ、川は埋められ、それまで見られた草花や生きものも減っていきました。ちひろは、「私は私の絵本のなかで、いまの日本から失われたいろいろなやさしさや、美しさを描こうと思っています」と語っています。そこには、身近な自然が失われていくことへの危惧も含まれていたのかもしれませんが。

それから50年が経ち、多くの生きものが日々地球から消えつつあります。ちひろの絵を通して、人間以外のいろいろな「いのち」となかよく生きるにはどうしたらよいか、楽しく考えていく展覧会です。

1-1  
 いわさきちひろ  
 わらびを持つ少女  
 『あかまんまとうげ』(童心社)より  
 1972年

## 企画協力

鷺谷いつみ  
 (東京大学名誉教授/生態学、保全生態学)

東京大学名誉教授。理学博士。みどりの学術賞、日本生態学会功労賞などを受賞。筑波大学、東京大学、中央大学で生態学・保全生態学の研究と教育に従事した。主な著書は、『につぼん自然再生紀行』、『さとやま—生物多様性と生態系模様』、『生物多様性入門』など。



生物多様性条約の世界目標は「自然との共生」。遠い昔からのヒトと自然との共生の場であったのに今はほとんどが失われた「野」。絶滅危惧種を含む野の花やワラビに子どもたちが親しむ情景が描かれた貴重な絵を鑑賞し、実物の植物がつくる小さな空間「共生の庭」で実感していただければと思います。ちひろさんの絵の魅力をひきたてている紫色は、生態系における植物が動物と共生関係を結ぶために進化させた花や熟した果実の色。赤から青までの濃淡さまざまな紫色を、共生の色として感性と知性で楽しむ展示もできればと思います。

展覧会の見どころ

あれ？みちくさする楽しさ。発見する驚き。

ちひろの描いた絵のなかの草花や生きものたちを、生態学の視点とアートユニット plaplax によるインタラクティブな展示を通して、まるで道草をするように、子どもから大人までが体験しながら楽しむことができる展覧会です。

ちひろが愛した紫のひみつ

広い視点から、ちひろの絵のなかの紫色に注目します。紫色は、万葉集にも詠まれ、その名前は、ムラサキという植物を起源とします。果物にもこの色が多いことから、生きものが見つけやすい色だといわれています。紫色のひみつに、生態学と美術、両方の視点から迫ります。

美術館の庭へ出てみよう

展示室をめぐったあとは、庭へどうぞ。絶滅が心配されているサクラソウや、『あかまんまとうげ』にも登場するワラビやフキが見られます。人と生きものがなかよくしていくために「共生の庭」と名づけたこの小さな庭から、地球の未来に想いをつなげます。



1-2 いわさきちひろ ぶどうとふたりの子ども 1964年頃



1-4 いわさきちひろ 春の花とこぎつね 1964年



1-6 plaplax Water Pocket 2014年



1-3 いわさきちひろ 草むらの小鳥と少女 1971年



1-5  
いわさきちひろ  
春の野原でじゃんけんをする子どもたち  
1970年



1-7 plaplax On the Stump 2015年



1-8 plaplax 新作のイメージスケッチ

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。

## 展覧会関連イベント

### ●講演会

日時：4月21日(日) (予定) \*オンラインでも配信予定  
 講師：鷲谷いづみ(東京大学名誉教授/生態学、保全生態学)  
 申し込み：要事前予約(3/21より公式サイト、TELにて)

### ●ワークショップ

日時：5月12日(日) (予定)  
 講師：岩田とも子(アーティスト)  
 申し込み：要事前予約(4/12より公式サイト、TELにて)  
 詳細は決まり次第、当館公式サイトにてお知らせします。

## 会期中のイベント

### ●松本猛ギャラリートーク

日時：3月31日(日) 14:00～14:30  
 参加費：無料(入館料別) / 申し込み：当日受付

### ●わらべうたあそび

日時：4月6日(土) 11:00～11:40  
 講師：服部雅子(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)  
 参加費：無料(入館料別)  
 講師：0～2歳児と保護者/定員：8組16名  
 申し込み：要事前予約(3/6より公式サイト、TELにて)



### ●国際博物館の日 たてものと庭・探検ツアー

日時：5月18日(土) 11:00～11:30 / 13:00～13:30  
 参加費：無料(入館料別) / 申し込み：当日受付



### ●ギャラリートーク

日時：毎月第1・3土曜日 14:00～14:30  
 参加費：無料(入館料別) / 申し込み：当日受付

### ●絵本のじかん

日時：毎月第2・4土曜日 11:00～11:30  
 参加費：無料(入館料別) / 申し込み：当日受付  
 協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)

\*最新のイベント情報は公式サイトでご案内しています。



いわさきちひろ  
 わらびをつむ少女  
 1972年

## 入館料改定のお知らせ

ちひろ美術館では、2024年3月1日より、入館料を下記の通り改定いたします。今後もより充実した展覧会の開催と美術館活動に努めてまいります。何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

### ○ちひろ美術館(東京・安曇野)

大人1200円 / 18歳以下・高校生以下無料  
 団体(東京館は有料入館者10名以上 / 安曇野館は有料入館者15名以上)、65歳以上、学生の方、18歳以下の保護者(お子さま1名につき2名まで)は900円 / 障害者手帳ご提示の方とその介添えの方1名は無料 / 年間パスポート3000円

### 展覧会基本情報

展覧会名 いわさきちひろ ぼつご 50ねん こどものみなさまへ  
 あれこれいのち

会期 2024年3月1日(金)～6月16日(日)  
 ※会期は予告なく変更になる場合があります。  
 ○開館時間＝10:00～17:00  
 (入館は閉館の30分前まで)  
 ○休館日＝月曜日(祝休日は開館、翌平日休館)  
 ※GW(4/27～5/6)は無休

入館料 大人1200円 / 18歳以下・高校生以下無料  
 団体(有料入館者15名以上)、65歳以上、学生の方、18歳以下の保護者(お子さま1名につき2名まで)は900円 / 障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料 / 年間パスポート3000円

交通 ○電車の場合＝西武新宿線 上井草駅下車徒歩7分  
 ○バスの場合＝JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分 / 西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分

※イベントおよび開館情報、会期、展示名は予告なく変更になる可能性があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お問い合わせは、公式サイトをご覧ください。お問い合わせは、公式サイトをご覧ください。